

# 冬期間栽培に情熱

後藤

隆さん (69)

佐智子さん (67)

(合川下杉)



高校卒業後、就農に必要な知識や生産技術を得るため、国内先進地研修（群馬県）で1年間、農業のノウハウを学んだ後藤隆さんは、水稲のほかキュウリやホウレンソウを手掛ける専業農家です。

3月に入り、後藤さんのビニールハウスでは冬期間の園芸品目として力を注ぐホウレンソウが収穫期を迎え、妻の佐智子さんと日々、収穫作業に励んでいます。

現在、後藤さんはビニールハウス6棟・450坪に栽培しています。成長の早いホウレンソウは、収穫のタイミングを逃すと出荷できないサイズにまで育ってしまうため、収穫作業はスピード勝負。身体への負担を考え、播種は1棟ごとに1週間ずらずらずらし収穫作業が重ならないように工夫。後藤さんは「収穫作業は朝と夕方2回に分けて行い、出荷作業もその都度終えるようにしている。同じ作業が続くと集中力がとぎれてしまうので時間を決めている」と話します。

収穫期間は3月～4月の1カ月間の年一作。収量はおよそ3・4トンで、JAを通



じて主に東京豊洲市場へ出荷しています。栽培品種は、気温に左右されにくく安定した低温伸張性が特徴の「オシリス」。草勢が立性で単位面積あたりの株数も多く植えられるため収量性が高い品種です。「寒くても収量がとれるのが大きな魅力。水管理や農業の必要もないので経費もかからない」と後藤さん。

以前は、春菊や小松菜なども栽培していましたが、冬期間、より寒さ（凍結）に強く管理がしやすいことに有利性を感じ、現在はホウレンソウ栽培を中心に取り組んでいます。

濃緑で良品質なホウレンソウを生産するため、今年は完熟堆肥の投入も検討している後藤さん。「知識や経験を自分で取り入れて実践できるのが農業の魅力。農業を生涯続けていくのにホウレンソウはふさわしい作物だ」と語ってくれました。

【作付概要】水稲14ha、キュウリ11ハウス6棟450坪（ホウレンソウ収穫後に連作）